

日本赤十字九州国際看護大学/Japanese Red

Cross Kyushu International College of

Nursing

Factors involved in a sexual assault crisis in early adolescence

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-06-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: NAGAMATSU, Miyuki, HARA, Ken-ichi メールアドレス: 所属:
URL	https://jrckicn.repo.nii.ac.jp/records/830

掲載原稿の著作権は日本思春期学会に帰属する。他誌および書籍へ図表を転載する場合は、書面でその旨を編集委員会に申し出た上で、著者および編集委員会の許可を得なければならない。

思春期早期での性暴力被害の危険につながる要因

Factors involved in a sexual assault crisis in early adolescence

永松美雪¹⁾ 原 健一²⁾

1) 佐賀大学医学部 看護学科母子看護学, 2) 佐賀県DV総合対策センター

1) Miyuki NAGAMATSU: Department of Maternal and Child Nursing, Faculty of Medicine, Saga University

2) Kenichi HARA: Saga Prefectural Center for General Countermeasures Against Domestic Violence

抄 録：近年，ソーシャルネットワークは思春期早期にも拡大し，さまざまな問題を起こしている。研究の目的は思春期早期での性暴力被害の危険につながる要因を明らかにすることである。2013年7月から9月までの3か月間，6中学校の中学3年生（14～15歳）の600人にインターネットの活用状況，性行為に対する態度，デートDVの認識，男女関係の意識，性被害の経験を調査した。511人（回収率85.2%）男子237人，女子274人が同意して調査に答えた。性暴力被害がある生徒は被害がない生徒より，インターネットで初めて出合った相手へメッセージや写真を送った割合が高く，性行為に対する否定的態度得点が低かった。また，被害がある女子は被害がない女子よりもデートDVの認識合計得点が低いことが認められた。性暴力被害予防のために思春期早期の男女へインターネットの活用やデートDVについての教育が急務であることが示唆された。

Synopsis : In recent years the social networking services have been rapidly expanding among young adolescents, causing various problems in our country. The purpose of this study was to examine factors involved in a sexual assault crisis in early adolescence. An anonymous questionnaire survey was conducted during a period of 3 months from July to September, 2013, the subjects being 600 students of both sexes aged 14 to 15 at 6 junior high schools. Consequently, 85.2% of the subjects or 511 students (237 males and 274 females) agreed to respond to the questionnaire which included the following question items: use of the Internet; attitude toward sexual intercourse; awareness of dating DV (domestic violence); awareness of male-female relationship; and experience of suffering sexual assault. Compared with the subjects with no sexual assault experience, those who suffered sexual assault showed higher frequency of sending their messages or photos through the Internet to a person whom they had never met before. The latter group tended to be less negative about having sexual intercourse than the former. In general the awareness of dating DV was lower for females with sexual assault experience. The findings suggested that the education on dating DV as well as how to use the Internet should be urgently provided to both males and females in early adolescence for the prevention of sexual assault.

Key words : Early adolescence, Sexual assault, Dating DV (domestic violence).

I. 緒 言

近年，IT環境の発展によりインターネットが利用できる多機能型携帯電話の普及が青少年の身近なコミュニケーションツールとなって以降，その危険性を知らない子どもにも急速にソーシャル

ネットワークが拡大し，さまざまな問題を起こしている¹⁾。特に，メール配信や掲示板を通じた援助交際の誘引や自画撮影画像の要求など言動による脅しを含む，望まない性的接触を目的とする暴力及び暴力未遂など性暴力被害（以下性被害と省略）のうち，警察の報告による強姦・強制わいせ

つの認知件数、検挙件数および検挙人員は、平成24年、平成25年と年々増加している²⁾。また、20歳未満の女子では、他に公然わいせつや略取誘拐も増加している³⁾。しかし、法務省法務総合研究所の調査によると性被害に遭い、被害を届ける女性はわずか13.3%と報告されている³⁾。

内閣府の3年に1度行われている全国20歳以上の男女を対象とした「男女間における暴力に関する調査」では、女性で異性から無理やり性交された経験があったと回答した人は7.7%を示し、そのうち被害を相談したのは28.4%にとどまり、警察に相談したのはわずか3.7%であり、性被害は潜在化していることが推測される⁴⁾。被害を受けた女性のうち、被害時期を「被害者が10代のとき」と回答しているものが38.7%と高率である⁴⁾。また、女子大学生・高校生を対象とした結婚前の男女間暴力（以下デートDV：dating domestic violence）の調査によると、女子大学生の14%、女子高校生の10%の被害経験があり、そのうち30%は、男性から性的なことを強制されたことがあると報告されている⁵⁾。さらに、最近のインターネットが利用できる多機能型携帯電話やタブレットの普及は、思春期早期での性被害に影響していることが推測されるが、その関連は明らかにされていない。以上により、思春期早期での性被害の危険につながる要因を明らかにすることを研究目的とした。

II. 方法

1. 研究期間・対象

調査期間は2013年7月から2013年9月までである。対象は、佐賀県予防教育事業（性行動に伴う危険を予防する中学生向けの新プログラム）に参加した中学校のうち学校長の研究承認が得られた6中学校に在籍する性被害予防に関する授業を受けていない14歳から15歳までの3年生600人であった。

2. 研究方法

1) 調査方法

調査方法として、研究者は、教育前に学校の教

師に説明書、調査票を配布した。教師への説明書には、調査票の配布方法や、回収方法を記載した。調査は守秘義務を重視し、生徒が記入する際、担任は廊下で待機し、性被害経験に関する質問項目は調査票の最後のページに配置し、記入後直ぐに、各自で小封筒に密封させ、クラス毎に回収した。生徒への説明書には、研究の目的として、データの守秘性、調査の参加を拒否できること、著者らの連絡先を詳細に記載した。さらに、わからない質問や答えたくない質問は記入しなくて良いこと、記入後に提出したくない場合は提出しなくて良いことを記載した。

調査後、参加した全中学校へ学年毎に調査結果を報告し、教育プログラム案を提示し、性被害の予防に関する教育を実施した。また、教育中に生徒や教員へ性被害に対する相談・対応を呼びかけ、相談や連絡があった生徒に対して佐賀県DV総合対策センターと性暴力救援センター・さが（さがmirai）と連携して対応した。本研究計画は、佐賀大学医学部倫理委員会に提出し研究承認を得て実施した。

2) 調査内容

(1) インターネットの活用状況

事前に調査に参加しない中学生と中学校教諭へのインタビューをもとに、著者らが性被害につながるやすいインターネットの活用状況を中学生向けに独自に作成した簡易な3項目の質問を使用した。①携帯電話やインターネットで初めて知り合った人へメッセージを送ったことがありますか？②携帯電話やインターネットで初めて知り合った人へ写真を送ったことがありますか？③携帯電話やインターネットで初めて知り合った人と会ったことがありますか？3項目の質問は、各経験の有無を答えるものである。

(2) 性行為に対する態度

著者らが中学生向けに独自に作成し、以前の研究の使用した簡易な3項目の質問を使用した^{6,8)}。①あなたは、あなた自身が中学生の時に、性行為をすることをどう考えていますか？②あなたは、あなた自身が高校生の時に、性行為をすることをどう考えていますか？（1=かまわない 2=

少しはかまわない 3=あまりよくない 4=よくない) ③あなたは、性行為をすることをさそわれた時、断る自信がありますか？ (1=自信がない 2=あまり自信がない 3=少しは自信がある 4=自信がある) 3項目の質問は四者択一で答えるもので、思春期の性行為に対して慎重な態度ほど点数を高く設定した。

(3) デートDVの認識

内閣府による男女間暴力に関する調査の身体的暴力、精神的暴力、性的暴力の内容を基に⁴⁾、著者により80高等学校の19,398人の高校生の調査に使用した質問票を参考に、中学生向けに簡易な10項目の中学生版質問票を作成し、著者らの以前の研究で信頼性が確認されている質問票を使用した(α 係数=0.80)⁶⁸⁾。男女交際において相手に対して行われる場合、4=そうだ、3=ややそうだ、2=ややちがう、1=ちがう、いずれかで答えるもので、質問は全て暴力であるため、暴力と認識しているほど高い得点として、その合計点をデートDV認識得点とした。

(4) 男女関係の意識

著者らが中学生向けに独自に作成し、以前の研究の使用した簡易な3項目の質問を使用した⁶⁹⁾。①男女交際において男女の対等な関係は、どの程度大切であると思いますか？ ②男女交際において相手を思いやることは、どの程度大切であると思いますか？ ③男女交際において自分を思いやることは、どの程度大切であると思いますか？ を尋ねた。これらの質問に対して、1=大切でない、2=あまり大切でない、3=少し大切である、4=大切である、から選択する。お互いを尊重する意識が高くなるほど、点数を高く設定した。

(5) 性被害の経験

WHOによる女性の健康と女性に対する性暴力に関する多国間での研究に使用されている質問⁷⁾をもとに専門家に翻訳を依頼し、中学生へのプレテスト後に使用した。①あなたは望んでいないのに、誰かに性行為を無理やりされたことがありますか？ ②あなたは望んでいないのに、よくわからない怖さのために、性行為をしたことがありますか？ ③あなたは相手の強さに負けて、恥ずか

しいと感じるような性行為を誰かに無理やりされたことがありますか？ その他、20歳未満の女子では、公然わいせつや略取誘拐・付きまといが多い状況から²⁾、著者らが中学生向けに独自に作成した簡易な2項目の質問を尋ねた。「あなたは望んでいないのに、誰かに身体を触れられたことがありますか？」、「あなたは知らない人に声をかけられたり、あとを付けられたりした経験がありますか？」を尋ねた。これらの5項目の質問は、性被害の有無について2者選択で答えるものであった。

(6) 性被害の相談状況

現在までに性被害があった生徒へ、相談の状況を把握するために、「あなたが望んでいない経験について、誰かに相談したことはありましたか？」を尋ねた。

(7) 今後の相談希望

将来、性被害にあった場合の相談希望を確認するために「今後、あなたが性被害や性暴力を受けた時には、誰かに相談したいと思いますか？」を尋ねた。

3) 分析対象と方法

男女間と男女毎に性行為・身体接触・付きまといの何れかの性被害の経験者と未経験者について、インターネットの活用状況は、各項目の割合を χ^2 検定により比較した。また、性行為に対する態度、デートDVの認識得点、男女関係の意識の値や合計はt検定により比較した。分析は、SPSSバージョン21を使用し、有意水準を $p < 0.05$ とした。

III. 結果

1) 性被害状況とインターネットの活用状況及び他の要因の男女比較(表1)

調査に同意し参加した生徒は、6中学校の3年生511人(回収率85.2%)で男子237人、女子274人であった。自分が望まない性被害経験として、望んでいないのに性行為を強要された経験がある生徒は、男子0.4%、女子1.1%で、望んでいないのに怖さのために性行為を経験した生徒は女子1.1%で、相手の強さに負けて性行為を無理やり経験した生徒は男子1.3%、女子0.7%であった。

表1 思春期早期における性被害経験と他の変数の男女比較

	全体 (n=511)	男子 (n=237)	女子 (n=274)	男女間の比較	
	% /M (SD)	% /M (SD)	% /M (SD)	t/ χ^2	p
性被害を受けた経験, (%)					
①望んでいないのに、誰かに性行為を無理やりされた	0.8	0.4	1.1	0.742	0.627
②望んでいないのに、よくわからない怖さのために性行為をした	0.6	0	1.1	2.611	0.252
③相手の強さに負けて、恥ずかしいと感じるような性行為を誰かに無理やりされた	1.0	1.3	0.7	0.372	0.667
①～③何れかの被害経験	1.4	1.3	1.5	0.035	1.000
④望んでいないのに、誰かに身体を触れられた	9.8	6.8	12.4	4.573	0.036
⑤知らない人に声をかけられたり、あとを付けられたりした	13.5	7.6	18.6	13.562	<0.001
①～⑤何れかの被害経験	19.0	12.7	24.5	11.495	<0.001
①～⑤何れかの被害経験の相談状況	22.7/n=97	10.0/n=30	28.4/n=67	4.687	0.035
今後、性被害を受けた時の相談希望, (%)	76.0	73.5	78.1	1.180	0.299
インターネットの活用状況, (%)					
①インターネットで初めて知り合った人へメッセージを送った	41.9	42.3	41.5	0.030	0.928
②インターネットで初めて知り合った人へ写真を送った	19.7	18.3	21.0	0.563	0.502
③インターネットで初めて知り合った人と会った	8.3	8.5	8.1	0.030	0.873
性行為に対する否定的態度合計, M (SD) 3-12	9.02 (2.51)	8.69 (2.78)	9.31 (2.23)	2.685	0.007
デートDVの認識合計, M (SD) 10-40	33.65 (6.73)	32.76 (7.80)	34.41 (5.53)	2.764	0.006
お互いを尊重する男女関係の意識合計, M (SD) 3-12	10.73 (1.51)	10.55 (1.62)	10.89 (1.40)	2.585	0.010

何れかの望んでいない性行為を経験したのは、男子1.3%、女子1.5%であった。

また、望んでいないのに体を触れられた経験がある男子は6.8%で、女子は12.4%で女子が男子より多いことを示した ($p=0.036$)。さらに、知らない人に声をかけられたり、あとをつけられたりした経験がある男子は7.6%、女子は18.6%で、女子が男子より多いことを認めた ($p<0.001$)。何れかの性被害経験をした生徒は、男子12.7%、女子24.5%で、女子が男子より有意に多いことを示した ($p<0.001$)。何らかの性被害経験をした生徒のうち、望んでいない経験については、誰かに相談したことがあるのは、男子10.0%、女子28.4%で、男子が女子より少ないことを認めた。今後、性被害や性暴力を受けた時には、誰かに相談したいかの問いには、男子73.5%、女子78.1%が相談を希望することを答えた。

インターネットの活用状況として、携帯電話やインターネットで初めて知り合った人へメッセージを送った経験がある男子は42.3%で、女子は41.5%であった。また、携帯電話やインターネットで初めて知り合った人へ写真を送った経験がある男子は18.3%で、女子は21.0%であった。さらに、携帯電話やインターネットで初めて知り合った人と会ったことがある男子は8.5%で、女子は8.1%であった。何れも男女間に有意差は認めなかった。

今回の研究対象において、性行為に対する否定的態度、デートDVの認識、お互いを尊重する男女関係の意識の何れかの合計得点の平均は、女子が男子より有意に高いことを示した。

2) 男子の性被害と予測される要因の比較 (表2)

(1) インターネットの活用状況

男子は、性被害経験者が未経験者より、携帯電話やインターネットで初めて知り合った人へメッ

表2 思春期早期の男子における性被害経験と他の変数の比較

	性被害経験者 (n=30) %/M (SD)	性被害未経験者 (n=207) %/M (SD)	性被害経験者と 未経験者との比較 t/ χ^2	p
インターネットの活用状況, (%)				
①インターネットで初めて知り合った人へメッセージを送った	75.9	37.6	15.269	<0.001
②インターネットで初めて知り合った人へ写真を送った	37.9	15.5	8.530	0.008
③インターネットで初めて知り合った人と会った	20.7	6.8	6.302	0.023
性行為に対する否定的態度合計, M (SD) 3-12				
①中学生の時に性行為を拒否する態度, M (SD) 1-4	7.40 (3.08)	8.88 (2.68)	2.765	0.017
②高校生の時に性行為を拒否する態度, M (SD) 1-4	2.50 (1.28)	3.16 (1.01)	3.193	0.002
③性行為を誘われた時にことわる自信, M (SD) 1-4	2.27 (1.23)	2.84 (1.07)	2.406	0.021
③性行為を誘われた時にことわる自信, M (SD) 1-4	2.72 (1.13)	3.11 (0.94)	2.019	0.045
デートDVの認識合計, M (SD) 10-40				
①たたいたりして、けがをさせる M (SD) 1-4	30.27 (10.27)	33.13 (7.32)	1.885	0.061
①たたいたりして、けがをさせる M (SD) 1-4	3.23 (1.10)	3.64 (0.79)	2.468	0.014
②けがをしない程度に、たたいたり、けったりする M (SD) 1-4	3.03 (1.18)	3.35 (0.93)	1.374	0.178
③突き飛ばしたり、ものを投げつけたりする M (SD) 1-4	3.27 (1.20)	3.64 (0.78)	2.217	0.028
④ものをこわしたり、なぐるふりをする M (SD) 1-4	3.07 (1.17)	3.34 (0.88)	1.503	0.134
⑤大声でどなる M (SD) 1-4	2.72 (1.25)	3.06 (0.97)	1.641	0.102
⑥バカにしたり、心が傷つくようなことを言う M (SD) 1-4	3.00 (1.14)	3.27 (0.91)	1.240	0.223
⑦何を言っても、相手にせず無視する M (SD) 1-4	3.03 (1.12)	3.12 (0.98)	0.401	0.691
⑧監視したり、外出させなかったりして行動の自由を奪う M (SD) 1-4	3.10 (1.34)	3.50 (0.87)	2.156	0.032
⑨他の異性と話をしたり、親しげにしたりすることを怒る M (SD) 1-4	2.73 (1.31)	2.98 (1.02)	1.208	0.228
⑩性行為やキスを断われなくする M (SD) 1-4	3.17 (1.28)	3.42 (0.90)	1.323	0.187
お互いを尊重する男女関係の意識合計, M (SD) 3-12				
①男女交際において男女の対等な関係は、どの程度大切であると思えますか M (SD) 1-4	10.23 (1.90)	10.59 (1.57)	1.127	0.334
①男女交際において男女の対等な関係は、どの程度大切であると思えますか M (SD) 1-4	3.47 (0.90)	3.58 (0.66)	0.838	0.403
②男女交際において相手を思いやることは、どの程度大切であると思えますか M (SD) 1-4	3.70 (0.53)	3.80 (0.54)	0.934	0.356
③男女交際において自分を思いやることは、どの程度大切であると思えますか M (SD) 1-4	3.07 (0.94)	3.24 (0.71)	0.986	0.331

メッセージを送った経験 ($p < 0.001$), インターネットで初めて知り合った人へ写真を送った経験 ($p = 0.008$), インターネットで初めて知り合った人へ会ったことがある経験 ($p = 0.023$) の割合が何れも有意に高いことが示された。

(2) 性行為に対する態度

男子の性行為に対する否定的態度の合計得点は、性被害経験者が未経験者より有意に低いことを示した ($p = 0.017$)。そのうち、現在における中学生の性行為を拒否する態度得点は、被害経験者が未経験者より有意に低かった ($p = 0.002$)。また、将来の高校生の時に性行為を拒否する態度得点は、被害経験者が未経験者より低かった ($p = 0.021$)。

さらに、性行為を誘われた時に断る自信の得点は、被害経験者が未経験者より低いことが認められた ($p = 0.045$)。

(3) デートDVの認識

男子のデートDVの認識合計得点は、性被害経験者と未経験者で差を示さなかった。しかし、各項目をみると「たたいたりして、けがをさせる」、「突き飛ばしたり、ものを投げつけたりする」、「監視したり、外出させなかったりして行動の自由を奪う」において性被害経験者は未経験者より有意に低いことを認めた。

(4) 男女関係の意識

男子のお互いを尊重する男女関係の意識合計得

表3. 思春期早期の女子における性被害経験と他の変数の比較

	性被害経験者 (n=67) % / M (SD)	性被害未経験者 (n=207) % / M (SD)	性被害経験者と 未経験者との比較 t/ χ^2	p
インターネットの活用状況, (%)				
①インターネットで初めて知り合った人へメッセージを送った	56.7	36.6	8.427	0.004
②インターネットで初めて知り合った人へ写真を送った	29.9	18.0	4.246	0.050
③インターネットで初めて知り合った人と会った	11.9	6.8	1.774	0.200
性行為に対する否定的態度合計, M (SD) 3-12				
①中学生の時に性行為を拒否する態度, M (SD) 1-4	8.81 (2.44)	9.46 (2.14)	2.041	0.042
②高校生の時に性行為を拒否する態度, M (SD) 1-4	3.22 (0.89)	3.43 (0.72)	1.999	0.050
③性行為を誘われた時にことわる自信, M (SD) 1-4	2.71 (1.05)	2.95 (0.97)	1.661	0.098
③性行為を誘われた時にことわる自信, M (SD) 1-4	2.92 (1.05)	3.23 (0.79)	2.503	0.013
デートDVの認識合計, M (SD) 10-40				
①たたいたりして、けがをさせる M (SD) 1-4	33.12 (7.78)	34.82 (4.52)	2.191	0.029
②けがをしない程度に、たたいたり、けったりする M (SD) 1-4	3.66 (0.80)	3.69 (0.59)	0.336	0.738
③突き飛ばしたり、ものを投げつけたりする M (SD) 1-4	3.32 (0.85)	3.38 (0.76)	0.523	0.602
④ものをこわしたり、なぐるふりをする M (SD) 1-4	3.74 (0.71)	3.80 (0.49)	0.597	0.552
⑤大声でどなる M (SD) 1-4	3.39 (0.91)	3.47 (0.70)	0.714	0.476
⑥バカにしたり、心が傷つくようなことを言う M (SD) 1-4	3.23 (0.93)	3.40 (0.70)	1.555	0.121
⑦バカにしたり、心が傷つくようなことを言う M (SD) 1-4	3.38 (0.88)	3.43 (0.65)	0.529	0.597
⑦何を言っても、相手にせず無視する M (SD) 1-4	3.22 (0.95)	3.31 (0.75)	0.745	0.457
⑧監視したり、外出させなかったりして行動の自由を奪う M (SD) 1-4	3.67 (0.79)	3.73 (0.54)	0.561	0.577
⑨他の異性と話をしたり、親しげにしたりすることを怒る M (SD) 1-4	2.94 (1.10)	3.14 (0.84)	1.539	0.125
⑩性行為やキスを断われなくする M (SD) 1-4	3.46 (0.90)	3.59 (0.69)	1.240	0.216
お互いを尊重する男女関係の意識合計, M (SD) 3-12				
①男女交際において男女の対等な関係は、どの程度大切であると思えますか M (SD) 1-4	11.09 (1.28)	10.83 (1.43)	1.393	0.166
②男女交際において相手を思いやることは、どの程度大切であると思えますか M (SD) 1-4	3.71 (0.29)	3.58 (0.59)	1.646	0.101
③男女交際において自分を思いやることは、どの程度大切であると思えますか M (SD) 1-4	3.91 (0.29)	3.88 (0.39)	0.602	0.548
③男女交際において自分を思いやることは、どの程度大切であると思えますか M (SD) 1-4	3.59 (0.63)	3.55 (0.56)	0.499	0.619

点は、性被害経験者と未経験者で有意な差を示さなかった。各項目においても差を認めなかった。

3) 女子の性被害と予測される要因の比較(表3)

(1) インターネットの活用状況

女子は、性被害経験者が未経験者より、携帯電話やインターネットで初めて知り合った人へメッセージを送った経験 ($p=0.004$)、インターネットで初めて知り合った人へ写真を送った経験 ($p=0.050$) の割合が有意に高いことが示された。

(2) 性行為に対する態度

女子の性行為に対する否定的態度の合計得点は、性被害経験者が未経験者より有意に低いことを示した ($p=0.042$)。そのうち、現在における中

学生の性行為を拒否する態度得点 ($p=0.050$)、と性行為を誘われた時に断る自信の得点は、被害経験者が未経験者より低いことが認められた ($p=0.013$)。

(3) デートDVの認識

女子のデートDV認識合計得点は、性被害経験者が未経験者より有意に低いことが示された ($p=0.029$)。また、すべての項目において、性被害経験者が未経験者より低い傾向が認められた。

(4) 男女関係の意識

女子のお互いを尊重する男女関係の意識合計得点は、性被害経験者と未経験者で差を示さなかった。各項目においても差を認めなかった。

IV. 考 察

1) 思春期早期の性被害の状況

今回の思春期早期の対象への調査では、自分が望んでいない性行為を受けた男子は237人中1.3%で、女子は274人中1.5%であり、男女ともに被害を受けていることが認められた。平成26年度犯罪白書によると全国の平成25年度の強姦の被害発生率は、女性の人口10万人当たり2.2%である⁹⁾。今回の調査では望んでいない性行為の相手を具体的に尋ねていないが、知らない相手だけではなく、知っている相手や交際相手が含まれていることが推測される。また、男女ともに望まない性行為の被害を受けている実態は、注目する結果であると考えられる。日本性教育協会による6年毎に報告されている平成23年度の全国調査結果では¹⁰⁾、性的行為の強要を受けている中学生の男子0.4%、女子1.9%と比較して、男子の性被害率が高い。さらに、高校生の居住地別被害調査において、男子の場合、大都市より中都市や町村など都市規模が小さくなると性的行為の強要の被害率が高く、友人を加害者として挙げる率が高いことから、友人関係が性被害を生起する可能性があることが報告された¹⁰⁾。これらにより、男子の場合は同性間での性被害が推測されるが、今後の検証が必要である。

全国の平成25年度の強制わいせつの被害発生率は、人口10万人当たり男子0.3%、女子11.4%が報告された²⁾。今回の調査では、望んでいない身体接触を受けたのは、男子は237名中6.8%で、女子は274人中12.4%で、男女ともに高い割合である。調査において、加害者や被害を受けた場所・状況は具体的に尋ねていないため、比較することはできないが、男女ともに望まない身体接触を受けている被害が存在することが示された。また、誘拐につながる危険がある知らない人に声をかけられたり、あとをつけられたりした経験があるのは、男子7.6%、女子18.6%であった。さらに、いずれかの性被害経験をした割合は、男子12.7%、女子24.5%で、女子が男子より約2倍多いが、男女ともに性被害を受けている実態が明ら

かとなった。

何らかの性被害経験をした生徒のうち、望んでいない経験について、誰かに相談したことがあるのは、男子10.0%、女子28.4%で、男子が女子より少ないことを認めた。法務総合研究所の調査によると性被害に遭い、被害を届ける女性はわずか13.3%と報告されているが³⁾、中学生の女子は、家族や学校関係者を通して地域の関連機関に相談できる機会があるが、男子においては、十分に相談しやすい環境が整っていないことが示唆された。今後、性被害や性暴力を受けた時には、誰かに相談したいかの問いは、男子73.5%、女子78.1%が相談を希望すると答えた。性被害の予防教育や被害時の相談機関についての情報や対応について伝え、相談を希望する若者がより増える取り組みが必要であると考えられる。

2) インターネット活用状況と性被害の関連

インターネットの活用状況として、携帯電話やインターネットで初めて知り合った人へメッセージを送った経験がある男子は42.3%で、女子は41.5%であった。今回の調査では、携帯電話の所持について尋ねていないが、内閣府による平成25年度の10歳から17歳までの携帯電話所持率の調査では、中学生全体で51.9%であり¹¹⁾、携帯電話を所持している者のうち、携帯電話やインターネットで初めて知り合った人へメッセージを送った経験がある者が高率であることが推測される。また、写真を送った経験がある男子は18.3%、女子は21.0%であり、何れも男女間に差は認めなかったということは、男女に関係なく携帯電話やインターネットを介した電子メールはコミュニケーションツールとして活用されている実態が示された。

男女ともに、携帯電話やインターネットで初めて知り合った人へメッセージや写真を送った経験の割合は、性被害経験者が未経験者よりも有意に高いことが明らかとなった。平成23年度の全国調査では、中学生女子の性的誘惑被害者や性的強要被害者のゲームサイト利用率が高いという報告があった¹⁰⁾。従来は、インターネット機器としてパソコンが主体であったが、近年は、より安価で

携帯性や操作性がよいスマートフォンやタブレットが多く用いられるようになり、中学生は男女ともにコミュニケーションツールとして電子メールによる文章や画像の送信が性被害の機会を増やしていることが示唆された。

また、今回の調査対象者のうち、携帯電話やインターネットで初めて知り合った人と実際に会った経験がある男子は8.5%、女子は8.1%であった。さらに、男子において、携帯電話やインターネットで初めて知り合った人と会った経験の割合は、性被害経験者が未経験者よりも高いことを示した。最近の子どもたちを取り巻くIT環境の落とし穴として、インターネット依存、いじめ、犯罪、浪費などさまざまな問題が指摘されている^{12, 13)}。インターネットでのいじめ加害者は、親子関係、子が親に抱く信頼、道徳的規範意識のすべてにおいてネットいじめ加害を行わない者よりもネガティブであることが報告された¹²⁾。子どもは、親子関係など周囲との関係性が悪くなると、インターネットを通じた顔が見えない見知らぬ相手とのコミュニケーションに心の拠りどころを見出そうとしてしまうことが考えられる。さらに、インターネットに依存すると不登校になりやすく、余暇をインターネットにより過剰使用するようになり悪循環を呈することが報告された¹³⁾。そのため、携帯電話やインターネットで初めて知り合った人と会った経験がある生徒の中には、インターネット依存、いじめ、犯罪、浪費などの問題を抱える生徒がいることが予測され、その要因に親子関係など周囲との関係性の問題が隠れていることを考慮した対応が重要であると考えられる。

3) 性行為に対する態度と性被害の関連

性行為に対する否定的な態度は、女子が男子より高いことを示した。しかし、男女ともに、性被害経験者は、未経験者と比較して、思春期早期にあたる中学生時の性行為を容認する態度を持ち、高校時においてもその態度が続くことが認められた。また、性行為を誘われた時に断る自信とも連動し、将来の性行為に対しても容認する態度につながっていることが示唆された。以前の著者らの研究で⁸⁾、男女ともに性行為経験者は、未経験者に

比較して、中学生の時（現在）の性行為を拒否する態度や高校生の時（将来）の性行為を拒否する態度、性行為を誘われた時に断る自信が低いことを示した結果と一致する。また、性行為を容認する態度である生徒は、性行為に慎重な態度の生徒より、親子関係や中学校の教員との関係がネガティブであり、性行為の経験がある友人や年上の交際相手がいる割合が高いことが報告されている¹⁴⁾。このように、性行為を容認する態度である者は、性行為に対して拒否する慎重な態度である者より、周囲との関係性の要因から性暴力被害につながるリスクがより高くなると考えられる。

4) デートDVの認識と性被害の関連

中学3年生に対するデートDVの認識得点は、女子が男子より高いことを示した。男子のデートDVの認識合計得点は、性被害経験者と未経験者で有意な差を示さなかったが、「たたいりして、けがをさせる」、「突き飛ばしたり、ものを投げつけたりする」などの身体的暴力や、「監視したり、外出させなかったりして行動の自由を奪う」などの身体的拘束についての項目得点は、性被害経験者は未経験者より有意に低いことを認めた。一方、女子のデートDV認識合計得点は、性被害者が未被害者より有意に低いことが示された。以前の著者らの研究で⁸⁾、男子のデートDVの認識合計得点は、性行為経験者と未経験者で有意な差を示さなかったが、女子のデートDV認識合計得点は、性行為経験者が未経験者より有意に低いことを認めた結果と一致する。デートDVは、男性よりも女性が被害を受けやすいことが報告されているように⁴⁾、女子の性被害者は、暴力の認識が低いために、デートDVの被害や性被害を受けやすいと考える。近年、海外で報告された「Adolescent Dating Violence」の予防要因として、知識、教育の適応時期、言語理解・IQ、共感性など個人の4要因と、愛情深い学校と良好な母子関係など関係性の2要因が報告されている¹⁵⁾。以前の著者らの研究は、女子では、性行為経験者は、未経験者よりも、セルフ・エスティームが低いことを明らかとしたが⁸⁾、発達過程にある思春期のセルフ・エスティームに影響を与える友人関係や家族

関係など関係性の要因が性被害にも影響を与えた可能性が推測された。思春期早期からの性被害の予防のためには学校・家庭と連携した教育や取り組みが重要であると考えられる。

5) 男女関係の意識と性被害の関連

お互いを尊重する男女関係の意識において、合計得点の平均は、女子が男子より有意に高いことを示した。しかし、男女ともに、男女関係の意識合計得点は、性被害経験者と未経験者で差を示さなかった。海外の研究では、女性に対する性暴力を支持する態度は、男女の不平等な態度に関係していることが示された^{15,16)}。日本の研究では、婚前の恋愛関係において、男女間で支配や束縛があるのは当然という偏見や誤解があることが報告された¹⁷⁾。しかし、今回の研究では、男女関係の意識と性被害の関連を示さなかった。性被害においては、加害者は性的接触や性行為を行うことを目的としていることが予測されることから、中学生が一般的に考える男女交際におけるお互いを尊重する男女関係の意識とは関連しなかったと推測されるが、さらなる検証が必要である。

この研究により、思春期早期の男女ともに、性被害経験者は、未被害者よりインターネットで初めて知り合った人へメッセージや写真を送った経験の割合が高く、性行為に対する否定的態度の得点が低いことを示した。また、性被害がある女子は被害がない女子よりもデートDVの認識合計得点が低いことが認められた。しかし、お互いを尊重する男女関係の意識においては性暴力被害と関連しなかった。これらの結果により、インターネットを介して初めて知り合った顔を知らない相手や顔見知りの相手からの性暴力被害を予防するためには、インターネットを活用する思春期早期から、インターネットに潜む危険を知り、デートDVに対する認識をもち、慎重な性的態度を維持する教育が必要であると考えられる。わが国において中学生向けのデートDV予防教育プログラムが実践され、その効果が評価されてきた^{7,18)}。また、今回の研究により、中学生のコミュニケーションツールとしての電子メールによる文章や画像の送信が性被害の機会を増やしていることから、思春期

早期から男女間の暴力に対して正しく理解することに加え、IT環境や地域に潜む性暴力被害につながる危険があることを強化する教育が必要であることを示唆した。さらに、性被害は、思春期早期の男女ともに生じていることを考慮して、男女ともに取り組むことが重要であると言える。特に、性被害は誰にも相談できない傾向があることから、相談しやすい環境や相談のための情報の提供、学校と連携して個別相談を実施していくことが必要である。また、性被害による心的外傷体験は、成長過程において大きな影響を生じるため、地域の性暴力救援センターと継続した支援を行うことが重要である。

この研究の限界は、思春期早期の対象者へ、望んでいない性行為や身体接触の加害者を特定する質問については、個人のプライバシーの配慮から学校の協力が得られずに尋ねていないため、知らない相手による被害か、交際相手や他の顔見知りによる被害であるかは調査結果からは不明である。今後の調査においては、調査方法の改善や工夫を行うことが必要である。また、今回、一地域の調査のために研究結果を一般化することができない。今後、より広範囲の対象へ調査を拡大することが必要である。

〔本研究は平成26年の第33回日本思春期学会に発表したものを論文としてまとめたものである。また、本研究に御協力いただいた学校関係者および生徒の皆さん、佐賀県DV総合対策センターと性暴力救援センター・さが（さがmirai）のスタッフの方々に厚くお礼を申し上げます〕

文 献

- 1) 井上英喜：児童・生徒のネット被害の状況とその対策，思春期学，32(1)，25，2014。
- 2) 警察庁：主な性犯罪の状況，平成25年版犯罪情勢，平成26年6月報告，2014。
- 3) 法務省法務総合研究所：犯罪白書，平成26年度版，2014。
- 4) 内閣府：男女間における暴力に関する調査(平成23年度)，2012。

- 5) 中田慶子：デートDVを知っていますか？若者たちのデートDVと防止教育について，助産雑誌，61(1)，54-59，2007.
- 6) 原健一，永松美雪，中河亜希，齋藤ひさ子：中学生男女の親・教員との会話と男女交際及び性感染症に関する知識・意識・行動との関連，思春期学，30(2)，223-234，2012.
- 7) 永松美雪，原健一，中河亜希，中野理佳：性行動に伴う危険を予防するプログラムの効果：性感染症予防教育に男女がお互いを尊重する関係を育成する教育を組み合わせて，思春期学，30(4)，365-376，2012.
- 8) 永松美雪，原健一：思春期早期での性行為経験と関係するデートDVの要因，思春期学，(2015年6月掲載予定).
- 9) WHO：Prevention of Intimate partner violence and sexual violence, 2012. (アクセス：2012年12月10日)
http://www.who.int/violence_injury_prevention/violence/activities/intimate/en/
- 10) 財団法人日本性教育協会編集：「若者の性」白書，第7回青少年の性行動全国調査報告，9-24，小学館，東京，2013.
- 11) 内閣府：平成25年度 青少年のインターネット利用環境実態調査，平成26年2月報告，2014
- 12) 寺戸武志：中学生におけるネットいじめについて，思春期学，32(1)，26-32，2014.
- 13) 中山秀紀，三原聡子，樋口進：インターネット依存（嗜癖）の最前線，思春期学，32(1)，34-38，2014.
- 14) Nagamatsu, N., Yamawaki, N., Sato, T., Nakagawa, A., & Saito, H. Factors influencing attitudes toward sexual activity among early adolescents in Japan. *The Journal of Early Adolescence*, 33, 267-288, 2013.
- 15) Vagi K.J., Rothman E.F., Latzman N.E., Tharp A.T., Hall D.M., Breiding M.J.: Beyond correlates. Beyond correlates: A review of risk and protective factors for adolescent dating violence perpetration. *Journal of Youth and Adolescence*, 42(4), 633-649, 2013.
- 16) Brighouse, H., Wright, E.O.: Strong gender egalitarianism. *Politics & Society*, 36, 360-372, 2008.
- 17) 伊田広行：「デートDV」をシングル単位恋愛論と結びつけて伝える，*Sexuality*, 32, 16-74, 2007.
- 18) 須賀朋子，森田展彰，齋藤環：中学生のためのDV予防教育プログラム開発と効果研究，思春期学，31(4)，384-393，2013.

（受付：平成27年3月3日）
（受理：平成27年8月28日）